

5. 「園外保育」 みくに幼稚園(千葉県柏市)

◆園外保育のねらい

- ・ 親とは離れ友達や先生と一緒に見学し、本物に触れたり、見たりする中で、五感で、物事の真理を感じ取る。
- ・ 電車を利用することにより公共の場所や車内でのルールやマナーを身につける。

◆園外保育の選定条件

テレビや図鑑で名称や形状、成り立ちはわかっている、実際に実物を見て、触れることによって理解し、自己のものとしてできるものが多々あります。そのため、園外保育を選定するには下記の条件で選んでいます。

1. 本物であること 魅力的で想像力をかきたてるもの。そのものでなければ伝えられない雰囲気があり、実物があることで同じものを見ているという感動をあげられるもの。
2. 教育の場 物事をわかりやすく設置してあり、説明、理解しやすいもので、触れることにより、子どもが自分自身で対応できるもの。
3. 意図があるもの 実際に体験する中で、新たな問題を発見し、人間としての生き方、科学のあり方などが示されているもの。

◆事例1「恐竜と鶏が仲間？」(科学博物館にて)

上野の科学博物館内の探検館で遊んだときのことです。恐竜が大好きな子どもたち、骨格標本を見て大喜び。

「この恐竜は何を食べていたのかな？」問髪をいれずに「肉食」「ほかの恐竜だよ。」

「そうなんだ。じゃあ、こっちのは。」またまた、「草食」「草だよ。」

「みんなよく知ってるね。どうして分かったの。」「だって歯がとんがっているのと、歯が四角いのでわかるの。」みんな、納得顔。そこで、「ほかにどんなところが違うのかな。」みんな真剣に再度目の前の恐竜を見始めました。

「頭のおおきさ。」「手が小さい。」「尻尾の大きさ。」そのうち、Dちゃんが、「あれ、足の指4本しかないよ。」みんな後ろ足に注目し始めました。「ほんとだ、でも後ろにも伸びてるよ。」「ニワトリの足みたい。」「前に抱いたことがあるウコッケイを思い出したのでしょうか、ほかの子どもたちも、「ホントだ、おんなじだ。」といい始めました。



◆事例2「文字が読めないことに感謝して？」(水族園にて)

見学に際しては、まず子ども達に気づかせることを一番とします。そして、何故かをみんなで考えていきます。知ってる知らないではなく、「見つけた、気づいた、どうしてか」を大切にします。情報が溢れている時代ですから子どもたちの情報量もものすごいものがあります。だからこそ、知識量ではなく、何故、どうしてと考えることが大切なのです。

「頭が四角いね。」「目が横についている。」「口がない」「あるよ。下のほうだよ。」

「違うよ、よこだよ。」「おなかの白いところが口だよ。」「あそこから空気をすってるんだよ。」「何で、あの魚をたべないんだ。」「あれは、エイだよ。」子どもたちは互いに気づいたことを口々に表現しながら見方を進展させていきます。教師は時々、アドバイスをします。想像力、観察力を十分に発揮させるには名前を知らせないほうがいいときもあります。潮時を見て、「このサメの名前はハンマーヘッドシャークっていう名前なんだって。」すかさず、子どもたちから「英語?」「わからない」教師[かなづち、トンカチだよ]「わかった、頭の形だ。」名前を知って一つのものの整理が最後につくのです。



◆園外保育のあとに・・・

園児たちが園外保育にいった感動を家で家族に伝え、今度は家族で同じ場所に出かけて感動を共有するといったことも多々あるようです。子ども同士の発見と親子の触れ合い2度の楽しみが生まれています。

◆園外保育の行き先

野田しょうゆ工場、羽田飛行場、静岡県吉奈温泉二泊三日宿泊保育、交通博物館、劇場にての観劇会、とうもろこしもぎ、いもほり、科学博物館、手賀の丘少年自然の家にて宿泊保育、葛西臨海公園、上野動物園 など

ポイント

本物に触れたり、見たりする中で、五感で物事の真理を感じ取ることを大切にした園外保育。その行き先の決め方、頻度、交通手段、さらには、子どもたちだけで行くことに対するこだわりなど、一つ一つに子どもたちの豊かな感性を育むための思いが込められ、工夫されています。